

令和6年度 第1回 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和6年8月9日（金） 13時27分～15時00分

2 場 所 大佛次郎記念館会議室

3 出席者 富岡 幸一郎 委員、中村 美帆 委員、古本 悦子 委員、八ッ橋 治郎 委員、  
米本 良子 委員

4 欠席者 無し

5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<p>1 定足数の確認</p> <p>2 委員会の公開・非公開</p> <p>3 議題：令和5年度業務評価</p>
議事・ 委員意見等	<p>1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「議題：令和5年度業務評価」の審議については公開とした。</p> <p>3 議題：令和5年度業務評価</p> <p>(1) 評価関係資料について</p> <p>ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。</p> <p>イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、令和5年度の文化事業、施設運営、施設管理及び収支決算などについて、実績及び自己評価についての説明があった。</p> <p>ウ 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。</p> <p>(2) 指定管理者へのヒアリング、評価・改善点の説明 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。</p> <p>ア 「I文化事業」について (ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者） ・「南方ノート・戦後日記」の出版は、日常の業務もある中で、記念館の作</p>

	<p>業が多くなっていることが懸念されるがそのあたりはいかがか。</p> <p>⇒ 記念館で所蔵していた資料を起こしていくという作業となるので、記念館以外がそこに関わることは難しい。今後未刊行の資料を出していくときには、同じことを辿るようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍をつくるために専門的知識を持った人に外部協力いただき、通常業務に大きな負担がかからない体制が機動的にできたらよい。</li> </ul> <p>⇒ 是非助言をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新データベースの移行は、今年度の公開に向けて昨年度準備されていたが、公開はされたのか。</li> </ul> <p>⇒ 4月に「ポール・ルヌアール没後100年 大佛次郎版画コレクション」が開始されることに伴い、先行公開でルヌアール作品のデータベース一覧を公開している。デジタルアーカイブとして公開するのは10月以降を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業収入は目標に達し観覧者数は目標に達していない。リンクする指標かと思うが、どのように分析しているのか。</li> </ul> <p>⇒ コロナ禍前の入館者人数を目標に設定している。有料入館者は令和4年・5年度と高くなってきているが、以前は多くの方に来ていただきたいという考えから、記念日など無料入館日を多く設けたことがこのような結果になったと分析している。今後は有料入館者を増やしていくという方針で進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出版物の刊行は、指定管理の運営上どのような位置づけになっているのか。</li> </ul> <p>⇒ 第2期指定管理において、使命1の「大佛次郎の刊行物、成果を広く知らせる」という項目で提案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・没後50周年の連携事業は、50年がきっかけでできたのか、何か働きかけがうまく進むような仕組みができあがっているのか。</li> </ul> <p>⇒ 没後40周年においても連携事業を実施している。40年の実績を基にして新たな団体も加わり連携を広げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きっかけがないとこのまま続けていくのは難しい点はあるか。</li> </ul> <p>⇒ 記念年は世間の注目が得られアピールする意味では効果的だと感じている。今回連携した団体とは令和6年度も事業計画しており、今後も記念年は続くので外部との連携は毎年必須でやっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三毛猫の絵は50周年で使いきりになるのか。何か今後の展開を踏まえているのか。</li> </ul> <p>⇒ 缶バッジやホームページなど今後も要所要所で活躍してもらおう方向で考えている。</p> <p>(イ) 評価</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「南方ノート・戦後日記」の出版について高く評価する。書籍の内容について、単に文学者・作家だけではなく、日本の敗戦や原子爆弾の情報など、当時の指導者とも深く関わっていたという歴史的な側面が出てきたことを評価したい。</li> </ul>
--	--

- ・大佛次郎を知っている方、知らない方、どちらにもアプローチできる多様な企画を実施していることを評価する。今後も続けていけば来館者の増が期待できる。
- ・デジタルアーカイブへの移行準備と先行公開をはじめとする調査・研究とその成果の公開、展示を見据えた所蔵版画作品の修復実施を評価する。
- ・他館との連携を積極的に行い、例年以上に幅広い事業を多数展開したこと、大佛次郎及び大佛次郎記念館の魅力を広く伝えることができたことを高く評価する。

#### 【更なる取組を期待する点】

- ・有料の入館者数を増やす方針で観覧者数及び事業収入も併せて伸びていくことを期待する。
- ・デジタルアーカイブとして、順調に秋に公開されることを期待する。
- ・没後50年を記念とした取り組みを機会に、一過性のものではなく、引き続き連携や入館者数を増やしていく取り組みに期待する。

#### イ 「Ⅱ 施設運営」及び「Ⅲ 施設管理」「Ⅳ 収支」について

##### (ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者、「➡」は市）

- ・日常の施設管理での修繕と記念館の全体的な大規模修繕との連携はあるのか。建物全体の老朽化と個別のトラブルに関連はないのか。
- ➡記念館は老朽化により修繕が必要な箇所が出てきているのは事実としてある。その中で指定管理者には日々点検をしていただき市へ報告してもらっている。金額により指定管理者もしくは市で修繕対応しているのが現状。大規模改修の予定はないが、将来的に施設の修繕計画を立てなければならないという認識は横浜市全庁的にあるので今後は視野に入れて進めていきたい。
- ・ショップ収入が伸びているが具体的にはどのようなものが売れているのか。
- ⇒大佛次郎の漫画展を第1期に開催し、その時期に発行された大佛次郎物語のコミックスや書籍の販売が伸びたことと、新商品を入れて常時商品の入れ替えをしていく中で、全体的に商品の売れ行きが良かった。
- ・観覧料が200円だが、値上げの予定はないのか。民間の入館料や光熱費の高騰、物価高を考えると多少上がってもやむを得ないのでは。
- ➡指定管理施設となるので、条例で利用料金の上限が定められており、現在上限で設定している。値上げをする場合は、条例改正が必要となる。
- ・修繕費が今年度高かったが、今後の見通しはどうか。
- ⇒5か年の提案の中で予算配分がある。昨年は収入が上がる見込みがあったので予算を超過し修繕をしたが、収支を見ながら執行管理をしている。休館しての設備修繕は、昨年度分電盤、今年度はティールーム等改修など市の予算でも対応し、大規模修繕とまではいかないが、情報共有しながら対応している。
- ・光熱水費が予算として多く計上しているが、物価高騰で多く見込んだの

	<p>か。</p> <p>⇒その通り。指定管理料は光熱水費や物価高騰分を踏まえて、市から上乘せしてもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影利用件数が目標10件に対し9件は誤差の範囲かと思うが、令和4年度と比べると見劣りする感がある。この数字の差に思い当たる理由はあるか。</li> </ul> <p>⇒令和4年は、非常に多く利用した団体がいて突出していたが、令和5年の下半期から利用が止まった。そのため、例年の状況に戻った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務が増えた点について、人件費はどのような対応をされたのか。</li> </ul> <p>⇒人件費は財団の本体で管理しており、令和5年度は出版と没後50年が重なり超勤が例年より増えた。財団本部へは状況を連絡し、超過勤務手当は正しく支払われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収支決算書の人事異動による人件費増加の具体的な内容を教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒人件費は、役職ごとの平均単価で予算を組んでおり、決算においても平均単価にて計上している。経験年数等により平均より高い職員が配置されると実際の支払額は高くなるが、財団本部で調整している。平均単価で決算した結果、90万円の黒字となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会の概要について教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒利用されている方の意見を聞いて運営に反映していくという提案をし、2年目の令和5年度に利用者懇談会を実施するという目標を立てた。日程調整の結果、実施は令和6年度の4月となったが、施設利用をしている団体へ声をかけ、了承いただいた3団体と使い勝手やどういうことがあれば助かるのかななどをざっくばらんに伺った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後に向けて、利用できそうな意見やそれを反映しての活動はあるか。</li> </ul> <p>⇒5年後には実現したいと思うヒントをいくつかいただいている。</p> <p>(イ) 評価</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和室・会議室の利用率が目標を上回った点を評価する。</li> <li>・利用料・事業収入・ショップ収入が増加したことを高く評価する。</li> <li>・小破修繕や設備不具合に早急に対応し、利用者の利便性を確保したことを評価する。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市と指定管理者で中長期的な大規模な修繕も含む検討をしていただき、貴重な記念館の安全性と持続性が担保できるよう取り組んでほしい。</li> <li>・入館料の上限について、時勢により見直してもよいのではないか。</li> <li>・公立文化施設と分かるよう横浜市立と施設名称に入っているとよいのではないか。</li> </ul> <p>ウ 「総括」について</p>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・没後50年の記念の年にふさわしい意欲的な活動で、文学ネットワークの構築や多様な関連事業を実施したことを高く評価する。</li> <li>・様々な事業が例年にも増して感じられ、それに伴い入館者数や収入も増えており、節目にふさわしい1年であった。これを機に一層の発展を期待する。</li> <li>・持続可能な文化施設運営から見た課題については、今後も経験を生かしてご対応いただきたい。</li> <li>・50周年の実施内容を何か可視化して示せると50周年の後も継続して伝えていくことができるのではないか。</li> </ul> <p>5 まとめ</p> <p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを見直し、事務局で調整のうえ、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p>
審議結果	<p>「議題：令和5年度業務評価」について、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p> <p>また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>